

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01914000381		
法人名	株式会社 メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園		
所在地	北海道函館市湯川町2丁目16番1号		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400381-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなた園は市電湯の川停留所から徒歩5分の閑静な住宅地に立地しており、ご家族様の通いにも便利です。多目的ホールを活用して音楽イベントを開催したり、外部講師による絵手紙教室や体操レクリエーションなどを2ユニット合同で行ない、入居者様が楽しく交流できるよう連携を取りながら運営しております。職員は入居者様が一日一日おだやかな気持ちでお過ごし頂けるよう介護に努めています。また、日常的にユニット間で入居者様が交流する場面が生まれるよう、都度、連携を取りながら運営しております。提携医との連携を高め、看護職員も配置して日々適切な医療のご案内が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひなた園」は、函館市湯の川地区の閑静な住宅街に位置し、多目的ホールを有したシックな色合いで存在感のある建物である。近くには湯の川温泉街や昔懐かしい趣きのある銭湯が点在する新旧が入り混じった街並みが広がっている。事業所内はキッチンやスタッフルームからユニット全体が見渡せる開放感のある構造になっており、職員は利用者として話しをしながら調理などの作業を行っている。多目的ホールを利用して音楽会なども開催し管理者がピアノ演奏をして皆を楽しませている。事業所の優れている点は、提携医との連携を密にすると共に看護職員を配置して24時間体制で適切な医療機関にご案内できるように取り組んでいる事である。管理者と職員は質の高いケアサービスを提供するために日々研鑽を積んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1階木ユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく生活できることを運営理念に掲げ、スタッフルームに掲示し、理念の共有に努めています。	事業所独自に作り上げた理念を掲げ、スタッフルームに掲示しその理念を理解して、利用者と共に「住み慣れた地域でその人らしく暮らせるように」を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の会員となり、親睦会への出席や地域の清掃活動へ参加し、地域住民との交流を図っています。近所の神社の例大祭には、入居者様と一緒に縁日に参加しております。	町内会に入会し、会報をいただいたり、町内の清掃活動に参加したり、地域の神社の夏祭りには縁日に出かけるなど地域の行事に参加している。ボランティアの受け入れも積極的に行い、定期的に絵手紙や体操レクリエーションの講師が訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報委員会を設置し、設立1周年を期に、園内の活動を取り上げた広報誌を作成する予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回過去2ヶ月の近況をスライドショーを交えてお披露目し、取り組み状況を説明しています。会議で出された意見は、ユニット会議にかけるなどして実際の運営に反映されるよう努めています。	本年度は5回の開催に止まっている。会議の案内は全家族にし、終了後の報告も行っている。スライドで利用者の暮らし振りを報告したり、事業所の取り組み状況も説明している。出席者から様々な意見やアイデアが出され、課題は全職員で検討して運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会の役員へは運営推進会議を通じて事業所の実績を報告しております。園内でイベントを実施する際は備品の貸与など、必要な協力が町内から得られている状況です。	市の担当者やケースワーカーとは密に連絡を取り合い、人事や書類などの相談をするなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年は、職員研修にて身体拘束に関する内部研修を実施しました。玄関は日中は自由に入出できますが夜間は防犯の為、施錠しております。	身体拘束を未然に防ぐためにマニュアルを整えそれを基に内部勉強会を実施し、また、いつでもすぐ見る事が出来る様にスタッフルームに掲示している。委員会を立ち上げ2年目から活動が出来るように計画をし現在シフトを調整中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で虐待に関する勉強会を開き、虐待の防止に努めています。また、今後は園内の虐待防止委員会を活用し、勉強の場を設けていく方針です。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者が権利擁護に関わる研修へ参加することで、適切な入居案内に繋がるよう努めています。職員にも勉強の機会をつくる予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を一文一文読み上げながら、十分な説明を行っています。契約内容に変更が加わる場合は、1ヶ月前からご家族様に通知し、十分にご理解いただいてから実施することと定めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でいただいた内容は、ユニット会議にかけて、運営改善に繋げています。	面会時や運営推進会議・アンケートなどで頂いた意見は真摯に受け止め職員会議で話し合い運営に反映している。家族の意見により各ユニットの入口に職員の写真と名前・担当利用者と一緒に撮った写真を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者は職員から毎朝申し送りを受け、日々、事業所として求められている適切な対応へ繋がるよう努めています。また、職員からいただいた相談内容は、責任者から返答することで、ユニット内の運営が円滑に機能するようサポートに努めています。	管理者は、働きやすい職場環境にするため職員の意見を良く聴き、相談事にも文章をもって誠実に答えている。また、必要に応じて個人面談も行うなど、きめ細やかな対応をして事業所の運営がスムーズに機能するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設1周年を目処に、各自が自律して職務に励むことができることを目的として自己評価・他者評価制度を導入する予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からいただく講習会などのご案内は適宜、職員へ案内しております。今後は、園内に設置した各委員会を通じて社内研修を実施していく予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会が主催する勉強会などを通じて、同業者と交流を図り質の向上に取り組んでいます。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必要に応じて施設見学していただき、また職員と本人が面談し状態やニーズの把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは入居前に十分な時間をかけて説明の機会を設けており、関係機関と連携しながら、適切なご案内に繋がるよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態に応じて複数の選択肢をご案内し、ご家族様を選べる状況になるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り家事に関わっていただくよう都度ご案内しております。また、レクリエーションを実施する際も、参加を呼びかけて行っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族受診を通じて、月に一回程度、ご家族様にご本人様を支援する機会が保たれております。また、ご家族様は日中の間、いつでも面会できます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族様の希望に応じていつでも可能であり、これまでもご家族様とご本人様が外食する、あるいは可能なご家庭では外泊するなど、馴染みの人との団欒の機会が設けられてきました。	家族が遠方にいる利用者は知人の方が訪問してくれたり、携帯電話なども自由に使って関係を継続している。家族と一緒に墓参りや外泊もするなど、関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の申し送りにて入居者様間の関係性は把握できております。ユニット会議などで情報を整理し、家事やレクリエーションを通じて、穏やかな共同生活が成り立つよう環境整備に努めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後も、転居先に介護情報など必要とされる情報提供を行うなど、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	責任者や職員は日々の会話を通じてご本人様から一人ひとりの思いや暮らしの希望を伺っており、困難な場合も本人本位の生活のあり方を職員間で話し合っています。	生活歴や家族の情報を大切に、日々のコミュニケーションを密にして表出された希望や思いは全職員が把握し、困難な利用者には選択の機会を多くし、表情や動作を見ながら推測したり真意を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様や担当ケアマネージャーなどから情報をいただきながら、入居後の適切なサービスのあり方に繋がるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に介護記録を作成し、一日の過ごし方の把握に努めております。ユニット会議などで、必要に応じてモニタリングを実施し情報を共有しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、面会時に都度状況報告しており、意向の把握に努めております。運営推進会議でいただいた意見やモニタリングの評価を受けてケアプランを作成しております。	家族の面会時には些細な事でも気軽に話していただけるように雰囲気作りをして要望やアイデアを頂き、アセスメント・モニタリング・カンファレンスを丁寧に行い、本人の現状に即した介護計画を作成している。	計画と実施状況との連動性が明確に分かるような記録方法を工夫する取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録の内容をユニット会議にかけることでサービスの内容を見直す機会を作っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は家族受診でご案内しておりますが、ご家族様の家庭環境やその時々のご家族様の状況に応じて、適宜職員受診に切り替えるなど、臨機応変に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏場は、入居者様と一緒に近所へ買い物に行くなど、地域資源を活用した取り組みを実施しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の家庭環境や、ご本人様の意向を伺いながら、必要に応じて医療連携のあり方を見直し、適切な医療体制に結びつくようご案内しております。	協力医が定期的に往診を行っているが、利用者個々にかかりつけ医を受診している。家族同行を基本としているが家庭の状況や緊急時には職員が代行している。受診後はお互いに報告し適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断にかかわる諸問題は、随時、看護職員や提携医に相談しながら、適切なご案内になるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師に必要な情報を提供しています。また入院中も責任者が見舞いに訪問するなどし、本人、看護師から話を聞く事で現状を把握し退院後のケアに結びつくよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居案内の際は、ご家族様に対して、園が介護施設である旨を十分に説明を尽くしており、ご理解していただいております。一人ひとりの状況に応じて、適宜、他の介護サービスのご利用を含めて選択の幅を持っていただけるようご案内をしております。	本人や家族に説明するための指針は作成していないが、ターミナルケアについては前向きに考えていて、医療関係者との連携を高めている。	契約時や早い段階で本人や家族に十分説明が出来る様に事業所の対応し得る支援を明確にした指針を作成する取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。事業所内に設置された救急救命委員会が主体となり、応急手当の内部研修を開き、緊急時に適切な対応が出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	園では、過去に火災を想定した訓練を実施しました。年2回の自衛消防訓練の機会を活用し、今後もさまざまな場面を想定した訓練を実施していく方針です。今後は、町会との体制づくりを確保していく予定です。	年2回火災を想定した避難訓練を消防署の指導の下、実施している。終了後は消防署からアドバイスや指摘がある。現在地域の方々との協力体制を築くための準備を進めている段階である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けする際は、その方と同じ目線で話すよう徹底し、目上の方ということを忘れず、丁寧な声掛け対応を心掛けております。	マニュアルを整備し開設時に内部勉強会を実施している。利用者を人生の先輩として敬い誇りやプライバシーを損ねないような対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に各入居者様に提案する形式でお声掛けしております。何事も、意思確認をし、ご本人様から同意を得られてからご案内しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝時間は概ね一緒の時間帯になるようご案内しておりますが、これらも、その日のご本人様の希望に合わせて、都度、個別に変更するなど、柔軟に対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方に対しては、その日何を着て生活したいかをご本人様に確認を取りながら衣服を選び、常に身だしなみを整えて生活できるよう支援しています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	園内の給食委員会や献立会議を活用して、提供される食事の質が安定するよう努めています。調理から後片付けまでを各入居者様と一緒にしております。	旬の食材を使い手作りにこだわって、利用者の嗜好や希望を取り入れた献立を作成している。食事の一連の作業を一日の大切な日課の一つと考え職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事水分摂取量を毎日記録し、職員が栄養のバランスに注意して毎日の献立を考えています。摂取量が少ない入居者様には声かけ他盛りつけ方、量を加減して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、口腔ケアのために各入居者様に声掛けしており、サービスご利用者様の口腔状態が常に良好に保たれるよう支援しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを履かなくても生活できるよう、事前にトイレ誘導することで排泄ができています。	トイレでの自然な排泄を大切に考え、排泄パターンやタイミング・習慣を把握することで排泄の自立に繋げている。オムツの使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理のない範囲での軽い運動など出来るだけ自然排便できるよう支援しています。下剤の服薬は主治医と連絡を取り量を調整し排便コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中本人の希望する時に入浴できるようにしています。バイタル測定し健康面でも異常ない事を確認してから状態に合わせて介助しています。	週2回の入浴をベースとしているが職員が介助に入れる時間帯であれば本人が希望する時に入浴が出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のご希望に沿って適宜、休息できております。逆に、日中の間をフロアでお過ごしいただくことで夜間は気持ちよく眠ることができるよう支援するなど、個別の状況に応じた介護を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの処方ファイルで確認でき全職員が服薬内容を把握できるようになっています。日頃から看護職員と介護職員による密な連携により、服薬支援の方向性について話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時々状況に応じてできることできないことがあります。園で把握している情報を活用しレクリエーションに活かすなどしております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は、天候をみて、ご本人様から外出の希望を取り、希望された方々と一緒に散歩する機会を作るなどしました。なるべく平等に外出の機会が持てるよう工夫しながら取り組んでおります。	暖かい季節には天候や気温を考慮して行きつけの魚屋やスーパーまで買い物に出かけたり、希望に応じて海までのドライブを楽しんでいる。家族と一緒に外出は自由に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防止するため、お金は原則、持ち込まないこととしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家庭環境に応じて携帯電話を持参していただいたり、絵手紙教室を活用して、ご家族に年賀状を送るなど取り組んでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節に応じた飾り付けを行ったり小物を作成したり植物の世話をしたりと穏やかに過ごせるように心がけています。トイレや浴室はいつも清潔に使用できるように配慮しています。	玄関や居間には利用者の手作りマスコット人形を飾ったり、居室のネームプレートに桜の花を添えるなど生活感や季節感を採り入れ家庭的な温かい雰囲気を出している。温度や湿度にも配慮し快適に過ごせるように努めている。オープンキッチンとスタッフルームからはフロア全体が見渡せ利用者の動きが良くわかる造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳50帖分のフロアを活用し、広々とした空間の中で、各自が自由に共用空間を利用したり、自分だけのプライベートな時間を過ごすなどしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、ご本人様にとっての馴染みの家具に囲まれて生活できるようご家族に説明を行っております。また、ベッドだけでなく、要望に応じて布団で寝られるよう配慮し、ご案内しております。	利用者は使い慣れた家具やミンシ・鉢植えの花などを持ち込んで部屋を整え、利用前からの趣味や手仕事が続けられる様に支援し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の状態に応じて居室入り口に目印を張り紙するなどしています。また、フロア内には手すりがついており、安全に歩行できるよう整備されています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01914000381		
法人名	株式会社 メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園		
所在地	北海道函館市湯川町2丁目16番1号		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 木ユニットに同じ」

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400381-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階花ユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく生活できることを運営理念に掲げ、スタッフルームに掲示し、理念の共有に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の会員となり、親睦会への出席や地域の清掃活動へ参加し、地域住民との交流を図っています。近所の神社の例大祭には、入居者様と一緒に縁日に参加しております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報委員会を設置し、設立1周年を期に、園内の活動を取り上げた広報誌を作成する予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回過去2ヶ月の近況をスライドショーを交えてお披露目し、取り組み状況を説明しています。会議で出された意見は、ユニット会議にかけるなどして実際の運営に反映されるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会の役員へは運営推進会議を通じて事業所の実績を報告しております。園内でイベントを実施する際は備品の貸与など、必要な協力が町内から得られている状況です。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年は、職員研修にて身体拘束に関する内部研修を実施しました。玄関は日中は自由に入出入りできますが夜間は防犯の為、施錠しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で虐待に関する勉強会を開き、虐待の防止に努めています。また、今後は園内の虐待防止委員会を活用し、勉強の場を設けていく方針です。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者が権利擁護に関わる研修へ参加することで、適切な入居案内に繋がるよう努めています。職員にも勉強の機会をつくる予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を一文一文読み上げながら、十分な説明を行っています。契約内容に変更が加わる場合は、1ヶ月前からご家族様に通知し、十分にご理解いただいてから実施することと定めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でいただいた内容は、ユニット会議にかけて、運営改善に繋げています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者は職員から毎朝申し送りを受け、日々、事業所として求められている適切な対応へ繋がるよう努めています。また、職員からいただいた相談内容は、責任者から返答することで、ユニット内の運営が円滑に機能するようサポートに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設1周年を目処に、各自が自律して職務に励むことができることを目的として自己評価・他者評価制度を導入する予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からいただく講習会などのご案内は適宜、職員へ案内しております。今後は、園内に設置した各委員会を通じて社内研修を実施していく予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会が主催する勉強会などを通じて、同業者と交流を図り質の向上に取り組んでいます。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必要に応じて施設見学していただき、また職員と本人が面談し状態やニーズの把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは入居前に十分な時間をかけて説明の機会を設けており、関係機関と連携しながら、適切なお案内に繋がるよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態に応じて複数の選択肢をご案内し、ご家族様を選べる状況になるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り家事に関わっていただくよう都度ご案内しております。また、レクリエーションを実施する際も、参加を呼びかけて行っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族受診を通じて、月に一回程度、ご家族様にご本人様を支援する機会が保たれております。また、ご家族様は日中の間、いつでも面会できます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族様の希望に応じていつでも可能であり、これまでもご家族様とご本人様が外食する、あるいは可能なご家庭では外泊するなど、馴染みの人との団欒の機会が設けられてきました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の申し送りにて入居者様間の関係性は把握できております。ユニット会議などで情報を整理し、家事やレクリエーションを通じて、穏やかな共同生活が成り立つよう環境整備に努めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後も、転居先に介護情報など必要とされる情報提供を行うなど、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	責任者や職員は日々の会話を通じてご本人様から一人ひとりの思いや暮らしの希望を伺っており、困難な場合も本人本位の生活のあり方を職員間で話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様や担当ケアマネージャーなどから情報をいただきながら、入居後の適切なサービスのあり方に繋がるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に介護記録を作成し、一日の過ごし方の把握に努めております。ユニット会議などで、必要に応じてモニタリングを実施し情報を共有しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、面会時に都度状況報告しており、意向の把握に努めております。運営推進会議でいただいた意見やモニタリングの評価を受けてケアプランを作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録の内容をユニット会議にかけることでサービスの内容を見直す機会を作っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は家族受診でご案内しておりますが、ご家族様の家庭環境やその時々のご家族様の状況に応じて、適宜職員受診に切り替えるなど、臨機応変に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏場は、入居者様と一緒に近所へ買い物に行くなど、地域資源を活用した取り組みを実施しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の家庭環境や、ご本人様の意向を伺いながら、必要に応じて医療連携のあり方を見直し、適切な医療体制に結びつくようご案内しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断にかかわる諸問題は、随時、看護職員や提携医に相談しながら、適切なご案内になるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師に必要な情報を提供しています。また入院中も責任者が見舞いに訪問するなどし、本人、看護師から話を聞く事で現状を把握し退院後のケアに結びつくよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居案内の際は、ご家族様に対して、園が介護施設である旨を十分に説明を尽くしており、ご理解いただいております。一人ひとりの状況に応じて、適宜、他の介護サービスのご利用を含めて選択の幅を持っていただけるようご案内をしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。事業所内に設置された救急救命委員会が主体となり、応急手当の内部研修を開き、緊急時に適切な対応が出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	園では、過去に火災を想定した訓練を実施しました。年2回の自衛消防訓練の機会を活用し、今後もさまざまな場面を想定した訓練を実施していく方針です。今後は、町会との体制づくりを確保していく予定です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けする際は、その方と同じ目線で話すよう徹底し、目上の方ということを忘れず、丁寧な声掛け対応を心掛けております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に各入居者様に提案する形式でお声掛けしております。何事も、意思確認をし、ご本人様から同意を得られてからご案内しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝時間は概ね一緒の時間帯になるようご案内しておりますが、これらも、その日のご本人様の希望に合わせて、都度、個別に変更するなど、柔軟に対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方に対しては、その日何を着て生活したいかをご本人様に確認を取りながら衣服を選び、常に身だしなみを整えて生活できるよう支援しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	園内の給食委員会や献立会議を活用して、提供される食事の質が安定するよう努めています。調理から後片付けまでを各入居者様と一緒にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事水分摂取量を毎日記録し、職員が栄養のバランスに注意して毎日の献立を考えています。摂取量が少ない入居者様には声かけ他盛りつけ方、量を加減して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、口腔ケアのために各入居者様に声掛けしており、サービスご利用者様の口腔状態が常に良好に保たれるよう支援しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを履かなくても生活できるよう、事前にトイレ誘導することで排泄ができています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理のない範囲での軽い運動など出来るだけ自然排便できるよう支援しています。下剤の服薬は主治医と連絡を取り量を調整し排便コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中本人の希望する時に入浴できるようにしています。バイタル測定し健康面でも異常ない事を確認してから状態に合わせて介助しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のご希望に沿って適宜、休息できております。逆に、日中の間をフロアでお過ごしいただくことで夜間は気持ちよく眠ることができるよう支援するなど、個別の状況に応じた介護を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの処方方はファイルで確認でき全職員が服薬内容を把握できるようになっています。日頃から看護職員と介護職員による密な連携により、服薬支援の方向性について話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時々状態に応じてできることできないことがあります。園で把握している情報を活用しレクリエーションに活かすなどしております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階花ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は、天候をみて、ご本人様から外出の希望を取り、希望された方々と一緒に散歩する機会を作るなどしました。なるべく平等に外出の機会が持てるよう工夫しながら取り組んでおります。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防止するため、お金は原則、持ち込まないこととしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家庭環境に応じて携帯電話を持参していただいたり、絵手紙教室を活用して、ご家族に年賀状を送るなど取り組んでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節に応じた飾り付けを行ったり小物を作成したり植物の世話をしたりと穏やかに過ごせるように心がけています。トイレや浴室はいつも清潔に使用できるように配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳50帖分のフロアを活用し、広々とした空間の中で、各自が自由に共用空間を利用したり、自分だけのプライベートな時間を過ごすなどしております。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、ご本人様にとっての馴染みの家具に囲まれて生活できるようご家族に説明を行っております。また、ベッドだけでなく、要望に応じて布団で寝られるよう配慮し、ご案内しております。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の状態に応じて居室入り口に目印を張り紙するなどしています。また、フロア内には手すりがついており、安全に歩行できるよう整備されています。			

目標達成計画

事業所名 グループホームひなた園

作成日：平成 26年 4月 9日

市町村受理日：平成 26年 4月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	計画と実施状況との連動性が明確になるような記録方法を工夫する取り組みに期待したい。	すべての職員が個々の介護計画の内容を十分に把握して、日々の介護記録を記述できるようにする。	以降、作成していく介護計画から番号をふっていき、介護計画に関わる内容を記述する際は、介護記録に該当する番号を記しながら記録に落としていくようにする。	6ヶ月
2	33	契約時や早い段階で本人や家族に十分説明が出来る様に事業所の対応し得る支援を明確にした指針を作成する取り組みに期待したい。	入居後のサービス提供の見通しについて、いつでも事業所としての指針を説明できる状態にする。	重度化した際や看取りに関わる指針を作成し、ご家族様に指針を説明する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。